

キューピー 社会・環境報告書 2018 ダイジェスト

持続可能な社会の実現にむけて

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



8 働きがいも経済成長も



12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



15 陸の豊かさも守ろう



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

キューピー株式会社



持続可能な社会の実現に貢献するとともに、キューピーグループの持続的な成長をめざします

キューピーは、1919年(大正8年)の創業以来、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわりを持ち続け、食品にたずさわる者の心構えとして「正直」「誠実」を愚直に守り続けてきました。

創始者 中島董一郎のこの教えと「最初につくり、育てる」というパイオニア精神のもと、日本で初めてのマヨネーズやドレッシングなどを世に送り出してきました。

とくに、1925年に日本で初めて製造・販売した「キューピー マヨネーズ」は、日本人の体格向上への中島董一郎の願いを込めた商品です。以来、「食を通じて社会に貢献する」という精神を受け継ぎ、私たちキューピーグループは、事業活動にとどまらず、社会や地球環境への貢献に向けたさまざまな活動に取り組んでいます。

近年、国内の経済活動の成熟化が進む一方で、地球環境を含めた社会課題はますます複雑に、また大きくなってきています。そのような中、私たちはこれまでのCSR活動に持続可能性(サステナビリティ)の考え方をより一層関連づけ、「CSRの基本的な考え方」を見直しました。



CSRの基本的な考え方

私たちはグループ理念と規範を遵守し
持続可能な社会の実現に貢献するとともに
グループの持続的な成長の基盤として
CSR活動を推進します

また、キューピーグループの強みやユニークさに、社会課題の解決に向けた国際的な目標であるSDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)を結びつけ、キューピーグループが与える社会への影響度とステークホルダーからの期待度を考慮して、「CSRの重点課題」を設定しました。

私たちは、見えない経営資源である「社是・社訓」をしっかりとグループで伝承し続け、ステークホルダーの皆様とより良い関係を築きながら、この重点課題に取り組んでいきます。

私たちは2019年に創業100周年を迎えます。次の100年も、最も信頼され親しまれるグループでありたいと考えます。マヨネーズ・ドレッシングを中心に、サラダとタマゴのリーディングカンパニーとして、従業員一人ひとりが環境や社会課題に真摯に向き合い、CSR活動により意識高く取り組んでいきます。

キューピー株式会社
代表取締役 社長執行役員

ちょうなん おさむ

長南 収

本ツールについて

私たちは、社会とともにキューピーグループが成長していくための「CSRの基本的な考え方」とSDGsを参考にした「CSRの重点課題」を設定しました。

この「キューピー 社会・環境報告書2018 ダイジェスト」は、重点課題と課題解決に向けたストーリーを紹介し、多くの方々に私たちの取り組みをご理解いただくことを目的に発行しています。

SDGs (持続可能な開発目標)



SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) は、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で決められた国際社会共通の目標です。持続可能な社会の実現に向けて2030年までに達成すべき17の目標で構成されています。SDGsは国や政府だけが意識すべき目標ではなく、途上国も先進国も含めた世界中のあらゆる組織と個人一人ひとりが取り組んでいく目標です。

目次

トップメッセージ	1
本ツールについて・目次	2
キューピーグループについて	3
CSRの基本的な考え方と重点課題	4
重点課題と課題解決ストーリー	5-14
健康寿命延伸への貢献	5-6
子どもの心と体の健康支援	7-8
資源の有効活用と持続可能な調達	9-10
CO ₂ 排出削減（気候変動への対応）	11-12
ダイバーシティの推進	13-14

●リンクボタン

 キューピーホームページへのリンク

レポートのプロフィール

対象期間: 2017年度 (2016年12月から2017年11月)
一部前後の内容を含みます
発行: 2018年5月

キューピーのCSR情報ツールの関係性



 キューピーの「横顔」



 キューピー 社会・環境報告書2018

「食を通じて社会に貢献する」という想いで、事業を展開してきました

キューピーは、卵黄を使った栄養豊富でコクのあるマヨネーズを1925年に日本で初めて製造・販売、そこには創始者である中島董一郎の日本人の体格向上への願いが込められていました。私たちは「良い商品は良い原料からしか生まれない」という信念のもと、創業以来「品質第一主義」を貫いています。

マヨネーズの発売以降も「最初につくり、育てる」というパイオニア精神を大切に、生産技術を磨き、素材のおいしさを活かした商品づくりを行い、ドレッシング、ミートソースなどの商品も日本で初めて製造・販売し、お客様にお届けしてきました。

また、商品開発だけでなくメニュー提案を積極的に行い、生野菜をサラダとして食べる文化の普及に努めるとともに、惣菜や外食の利用といった日本人の食生活の変化に対応して、さまざまな食シーンでおいしさや食のたのしさをお届けし、「豊かな食卓」を提案し続けています。

私たちは「食を通じて社会に貢献する」という創始者の想いを受け継ぎ、世界の食と健康に貢献するグループをめざします。



創始者 中島董一郎



社会課題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します

キューピーグループの理念	
社 是	楽業偕悦
社 訓	● 道義を重んずること ● 創意工夫に努めること ● 親を大切にすること
(大切にしている教え)『世の中は存外公平なものである』	
めざす姿	私たちは「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって世界の食と健康に貢献するグループをめざします

姿 勢	グループ規範を遵守し、お客様をはじめとしたステークホルダーの皆様から最も信頼していただけるよう努めます
-----	--

グループ規範

倫理規範

法令の遵守
人権の尊重
公正・健全な企業活動
情報セキュリティの徹底
反社会的勢力への対応

行動規範

品質第一主義
ダイバーシティの推進
食育を中心とした社会貢献
地球環境への貢献
新たな挑戦

CSRの基本的な考え方

私たちはグループ理念と規範を遵守し
持続可能な社会の実現に貢献するとともに
グループの持続的な成長の基盤として
CSR活動を推進します

CSRの重点課題

持続可能な社会と企業の実現に向けて、社会課題の解決に取り組みます。キューピーグループの強みやユニークさ、私たちの問題意識をもとに、SDGsを参考にして取り組むべき社会課題を抽出し、それぞれ社会への影響と企業にとっての重要性を評価することで、「CSRの重点課題」を設定しました。

重点課題	私たちの想い	SDGsとの関連づけ
健康寿命延伸への貢献	高齢になっても元気で過ごせる社会に貢献します	2 健康を ゼロに 3 すべての人に 健康と福祉を
子どもの心と体の健康支援	食を通じて子どもの心と体の健康を支え、 未来の活躍を応援します	1 健康を なくす 4 質の高い教育を みんなに
資源の有効活用と持続可能な調達	自然の恵みに感謝し、 地球の持続可能性に配慮します	2 健康を ゼロに 12 つくる責任 つかう責任 15 陸の豊かさも 守ろう
CO ₂ 排出削減(気候変動への対応)	地球温暖化防止の実現に向け、 CO ₂ 排出削減に取り組みます	13 気候変動に 具体的な対策を
ダイバーシティの推進	理念に共感するグループの一人ひとりが、互いを受容し、 学びあい、持続可能な社会とグループの成長をめざします	5 ジェンダー平等を 実現しよう 8 働きがいも 経済成長も

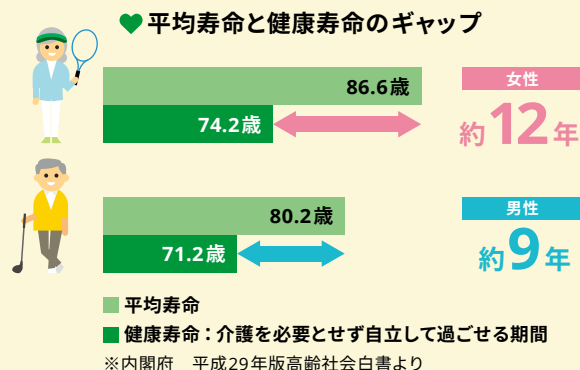
高齢になっても元気で過ごせる社会に貢献します



重点課題 健康寿命延伸への貢献

社会ニーズ

- ▷ 高齢者の生活の質の向上
- ▷ 国や地域の医療・介護費の抑制



課題解決ストーリー

- ▷ サラダ(野菜)と卵の栄養機能で、中高年の生活習慣病予防や高齢者の低栄養状態を改善します



全国各地で介護に関する勉強会や交流会を開催しています。2017年度は全国で300回以上開催しました。キューピーの社員が講師を務め、介護の悩みやコツなどの情報交換をしながら、食事づくりの負担を減らす介護食(やさしい献立)の紹介や元気にいきいき暮らすための予防法などについても話をしています。

日本人の平均寿命の長さは世界でもトップクラスですが、要介護期間も長く、健康寿命の延伸は重要な社会的課題です。健康長寿は食生活と関わりが強く、中年期には高血圧などの生活習慣病予防として、ビタミン、カリウムなどのミネラル、食物繊維の供給源である野菜の摂取が重要です。また、高齢期には低栄養により生活機能が低下しやすく、たんぱく質やエネルギーをしっかりと摂る必要があり、体内で効率よく利用される

良質なたんぱく源である卵を食べることは効果的です。元気で楽しく暮らしていける健康寿命をさらに伸ばしていくためには、栄養バランスのよい食生活を送ることが大切です。私たちは、グループの事業と関わりの強い「サラダ(野菜)」と「卵」を中心としたさまざまな食の提案を通じて、健康寿命の延伸に貢献していきます。

健康寿命延伸への取り組み

SDGs目標2: 飢餓をゼロに

飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



SDGs目標3: すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



野菜のメニューを食卓の主役に

1925年キューピー マヨネーズの発売当時、日本では生野菜を食べることは一般的ではなく、キューピーは、マヨネーズとともに生野菜をサラダとして食べる文化を広めてきました。キューピーグループは、1974年にはサラダ調味料の販売だけでなくサラダそのものの製造販売を開始し、また、水菜やゴーヤーをサラダ素材として根付かせるなど、野菜の楽しみ方を拡大してきました。現在は、農業協同組合 (JA) や生産農家と連携して、ロメインレタスの認知拡大を進めるとともに、バランスよく栄養が摂れる「パワーサラダ」の提案に取り組んでいます。今後も、野菜の摂取量拡大につながるよう、さまざまなメニュー提案を通して野菜の楽しみ方を広げ、健康的な食生活をサポートしていきます。



パワーサラダは、野菜、フルーツ、たんぱく質、トッピングを組み合わせた新しいサラダのスタイルです。旬の野菜やフルーツを取り入れた、さまざまなパワーサラダの提案を行っています。

サラダをもっとたのしく。もっと食卓に。

卵の魅力を発信

キューピーグループでは、日本の年間生産量の約10% (約25万トン) にあたる卵をマヨネーズなどの商品に使用しています。卵には優れた栄養に加え、おいしさを引き立てる色、熱で固まる、泡立つ、乳化するなど卵の多彩な機能があり、商品開発やメニュー提案に活用しています。私たちは、おいしく卵を食べていただく商品を提供するとともに、卵を楽しむ食シーンを拡大する取り組みも行っています。例えば、春の訪れを祝うイースター*のシンボルが卵であることに早くから着目し、2011年より卵の楽しみ方の提案を継続しています。また、一般のお客様やお取引先に見学施設を通じて卵の優れた機能やその活用法をお伝えしています。これからも、卵のおいしさを引き出す商品をお届けするだけでなく、卵の魅力の情報発信に取り組んでいきます。

*イースターは、キリスト教ではイエス・キリストの復活を祝う大切な祝日です



キューピー神戸工場の「たまごの部屋」では、卵の栄養、乳化 (水と油を混ぜる) 作用、泡立つ理由など、卵のさまざまな機能について紹介しています。

おしえて! キューピー卵のこと。

食を通じて子どもの心と体の健康を支え、未来の活躍を応援します



重点課題 **子どもの心と体の健康支援**

社会ニーズ

- ▷ 食に関する知識獲得や体験機会の拡大
- ▷ 貧困の次世代への連鎖の低減

👤 **子どもの貧困率**

子どもの7人に1人が貧困状態です



※厚生労働省 平成28年国民生活基礎調査より

課題解決ストーリー

- ▷ サラダ(野菜)と卵を活用した食育や共食の体験の場を提供します
- ▷ 子どもや子育て家族への食を通じた支援により、子どもと家族・社会とのコミュニケーションを応援します



小学校へのお出前授業「マヨネーズ教室」の様子です。2002年からスタートし、2017年度には全国延べ328校で開催しました。マヨスター（社内資格）を持つ従業員が講師となり、マヨネーズの手づくり体験を通して、食の楽しさと大切さを伝えています。

近年、ライフスタイルや食生活の多様化が進む一方で、核家族化や共働き、ひとり親家庭の増加など、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。これらの変化は、子どものさまざまな知識や体験の不足、人との関係性の希薄さ、また、子育て世帯では親の孤立や子どもの貧困の広がりなどの社会的課題にもつながっています。

食育基本法では、食育を「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの」として

います。人が集う食卓は、食事を通じて健康を支えるとともに、人と人が交流し、社会性や豊かな心を育む重要な場所となります。私たちキューピーグループは、子どもの心と体の健康を願い、食に関わる知識と体験の場の提供や子育ての食にまつわる不安解消、子どもの居場所づくりの支援などを行っていきます。子どもの「生きる力」「考える力」を育て、未来の活躍を応援していきます。

子どもの心と体の健康への取り組み

SDGs目標1: 貧困をなくそう

あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



SDGs目標4: 質の高い教育をみんなに

すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



食を通じて課題解決に取り組む団体を支援

キューピーは、「食を通じて社会に貢献する」という想いのもと、1961年より工場見学を開始。製造の様子やものづくりの想いをお伝えしています。また、全国の小学校で「マヨネーズ教室」を開催し、野菜摂取の大切さの講義とマヨネーズを手づくりして一緒に食べる体験を通じて、食の楽しさと大切さを伝えてきました。さらに、従来進めてきた独自の取り組みを進展させるだけではなく、私たちの想いを共有しうる団体の活動を支援することで一企業だけでは成し得ない社会貢献につなげていきたいと考え、2017年4月に「キューピーみらいたまご財団」を設立しました。2017年度は食育活動に取り組む8団体、食を通じた居場所づくりに取り組む12団体への助成を行っています。



2017年10月2日「地域の居場所づくりサミット」において、「第一回キューピーみらいたまご財団助成授与式」および「食の居場所づくり講座」を開催しました。写真は、助成団体からの出席者と財団の評議員および役員です。

 キューピーみらいたまご財団

乳幼児をもつご家族の不安と負担を軽減

東京都調布市にある見学施設マヨテラスでは、離乳期の子どもをもつご家族向けのイベント「ベビーフードを上手にを使って楽しく育児を!」を開催しています。離乳食やベビーフードに関する正しい知識を得ることで食にまつわる不安が解消され、子どもとのコミュニケーションの時間が増えます。さらに、イベントに参加する子どもをもつご家族同士のネットワークも生まれています。今後は、この取り組みを工場見学施設などにも広げ、幅広い方々に体験していただくことで、子育てを楽しむ社会づくりを働きかけていきます。



「ベビーフードを上手にを使って楽しく育児を!」を、2017年度は25回開催しました。写真は、生後6～12ヶ月を対象とした離乳食中期・後期編のイベントで、ベビーフードの開発担当者が子育てするうえでの食に関する悩みを聞いている様子です。

自然の恵みに感謝し、地球の持続可能性に配慮します



重点課題 資源の有効活用と持続可能な調達

社会ニーズ

- ▷ 食べられるのに捨てられる食品ロスの削減
- ▷ 持続可能な農業生産の推進

∞ 日本国内で食べられるのに捨てられる食品

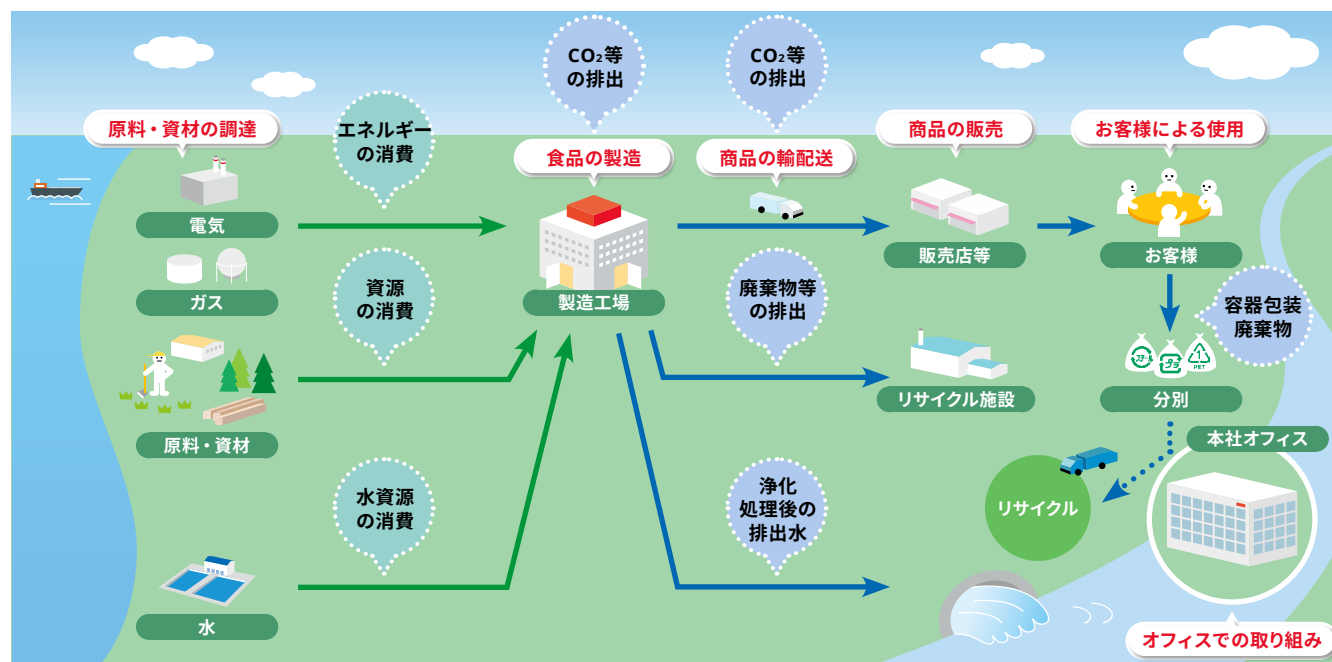


食品ロス年間発生量
646万トン

※環境省推計(平成27年度)より

課題解決ストーリー

- ▷ 食資源を余すことなく有効活用し、食品廃棄を削減します
- ▷ 農業生産者との取り組みで、持続可能な農業を支援します



食品メーカーとして、原料・資材の調達からお客様による使用・リサイクルまでサプライチェーン全体に責任をもって持続可能な農業生産と環境負荷の低減に努め、限りある資源の有効活用に取り組んでいます。

食品メーカーとしてお客様に安心いただくには、商品の安全性に加えて、原料・資材の調達から生産・販売、廃棄物のリサイクルまで、商品のライフサイクル全体に責任ある取り組みが必要と考えています。

2018年1月「キューピーグループの持続可能な調達のための基本方針」を定め、お取引先と協力して、安全性に加え、環境や人権に配慮した調達を進めていくことを表明しました。また、原料を最大限活用するため、

マヨネーズなどに用いる卵の殻は100%リサイクルを行っているほか、市場拡大が続くサラダ・惣菜事業では、商品には使用できない野菜の未利用部位を有効に活用するなど、創意工夫を続け、サプライチェーン全体の持続可能性に配慮しています。

キューピーグループの持続可能な調達のための基本方針
(2018年1月制定)

資源の有効活用と持続可能な調達への取り組み

SDGs目標2: 飢餓をゼロに

飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

SDGs目標12: つくる責任つかう責任

持続可能な消費と生産のパターンを確保する

SDGs目標15: 陸の豊かさも守ろう

陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る



キャベツ・レタスの外葉や芯を乳牛の飼料に

近年、共働きや単身世帯の増加などを背景として、手軽に野菜を食べることのできるカット野菜の利用が進んでいます。キューピーグループが販売するカット野菜は製造過程ではキャベツ・レタスの外葉や芯などの未利用部位（商品に使用できない部分）が発生します。私たちは、野菜の未利用部位を資源として無駄にせず、より有効に使う工夫を重ねています。2017年は、大学や飼料の専門家との連携により、キャベツ・レタスの外葉や芯などの未利用部位を乳酸発酵させ、乳牛の飼料に配合する方法を開発しました。一般的な飼料に比べて乳量が増えることがわかり*、より多くの酪農家の利用拡大を進めます。

*日本畜産学会 第124回大会（2018年3月） 東京農工大学・キューピー

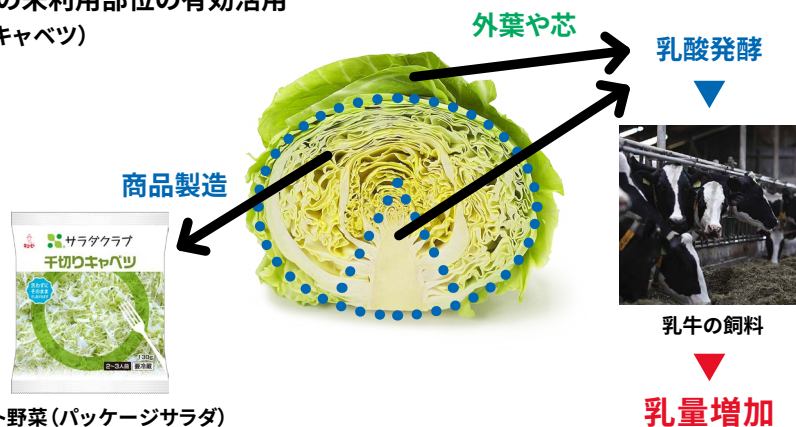
次世代を担う若者とともに耕作放棄地を畑に変える

私たちは、原料などの調達先へ担当者が定期的に訪問し、ものづくりの考え方などを共有しながら、ともに協力して課題を解決することを大切にしてきました。国内の農業は、天候不順、後継者不足、耕作放棄地の拡大などの課題を抱えています。キューピーは2017年より日本各地の耕作放棄地を畑に変えて野菜を栽培する有限会社ワールドファームと提携して取り組みを進めています。茨城県つくば市、石川県能登町、秋田県横手市などの契約産地から新鮮なキャベツが、グループ会社の製造するカット野菜などの原料の一部として届けられています。



茨城県つくば市の圃場の様子。耕作放棄地を畑に変えることで、安定した野菜の調達につながるだけでなく、農業に挑戦する若者たちも増えています。

野菜の未利用部位の有効活用 (例：キャベツ)



地球温暖化防止の実現に向け、CO₂排出削減に取り組みます

重点課題 CO₂排出削減 (気候変動への対応)

社会ニーズ

- ▷ 自然災害や農作物の質や収量の低下につながる気候変動の抑制

🌐 日本の温室効果ガス削減目標



2030年度まで

-26% (2013年度比)

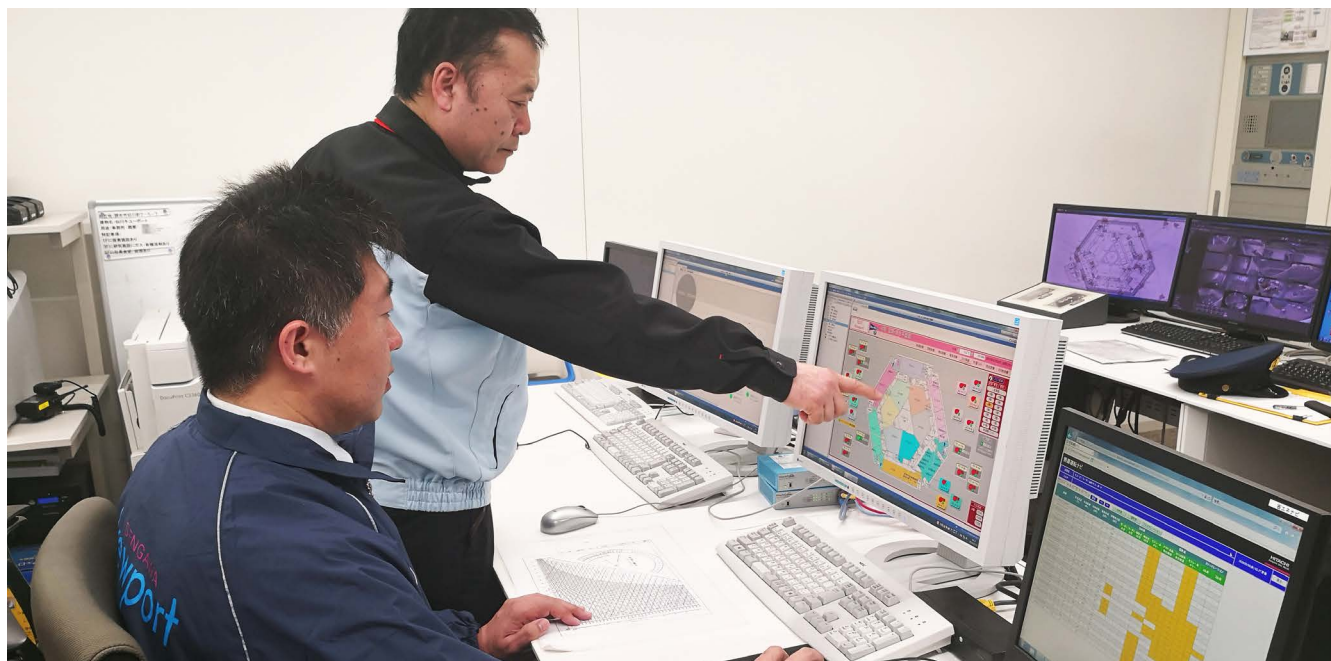
2050年度まで

-80%

※環境省 地球温暖化対策計画より

課題解決ストーリー

- ▷ 原料調達から商品の使用・廃棄まで、サプライチェーン全体を通じたCO₂排出削減を実現します



2013年に開設したオフィス「仙川キューポート」の中央監視室です。自然換気システムや太陽光発電システムなどの性能を最大限に引き出すために、設備の運用改善を行い年間約250トンのCO₂排出削減を実現しています。

気候変動に関するパリ協定が2015年に採択されたことを受け、地球温暖化防止に向け企業の事業活動全体でCO₂排出を削減することを期待されています。これまでグループ全体で製造工程における効率改善、省エネ設備の導入、重油から天然ガスへの燃料転換などにより、CO₂排出削減に取り組んできました。さらに、グループ工場の製造工程の効率化だけでなく、前工程となる原料資材メーカー、後工程となるグループ物流

会社との連携を最適化するなど、事業活動全体の効率化によりCO₂排出削減を行っています。今後は、原料調達から商品の使用、廃棄まで、サプライチェーン全体を通じたCO₂排出削減に取り組みます。

CO₂排出削減(気候変動への対応)への取り組み

SDGs目標13: 気候変動に具体的な対策を
気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る



環境に配慮したモデル工場

2016年10月に操業を開始したキューピー神戸工場は、従来のマヨネーズ工場と比べてエネルギー消費量50%削減をめざしています。生産・執務・見学エリアを結ぶ熱融通システムやエネルギー管理システムなど省エネ・創エネを実現する多様な環境配慮技術を導入し、「CASBEE神戸(神戸市建築物総合環境評価制度)」の最上級評価を取得しています。また、調達・生産・販売・物流部門の情報連携の仕組みの構築や徹底した自動化・省人化により、生産性向上、生産リードタイム短縮、在庫削減を実現し、CO₂排出削減にも貢献したことが評価され、「2017年度 ロジスティクス大賞」を受賞*しました。

*公益社団法人日本ロジスティクス協会が表彰。キューピー神戸工場の施工を担当した(株)竹中工務店、物流を担うキューソー流通システムとの共同受賞です。



「エネルギー1/2」をコンセプトとしたキューピー神戸工場は、持続可能な社会を次世代につなぐ想いを形にしたモデル工場として、技術とノウハウをグループの事業所に水平展開していきます。

グループ各社連携でモーダルシフトを推進

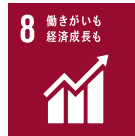
500km以上の長距離トラック輸送を鉄道・船舶でのコンテナ輸送へ転換するモーダルシフトを推進しています。鉄道はCO₂排出量がトラックの約10分の1とされ、しかも長時間運転するドライバーの負担が軽減されます。2015年より、物流を担うグループ会社のキューソー流通システムを中心に、日本貨物鉄道(株)とグループ各社が連携して、長距離トラック輸送のモーダルシフトを進めています。モーダルシフト化率*は2015年度16%から2017年度40%となり、2018年度は50%を目標に取り組んでいます。私たちは、地球にも人にもやさしい商品輸送をめざします。

*モーダルシフト化率：500km以上の輸送トン数に対し、鉄道や船舶による輸送トン数の比率



鉄道・船舶積載用31フィートコンテナ常温品用4基に加え、2017年4月より冷凍品用2基導入し、輸送事業者と連携してモーダルシフトを進めています。

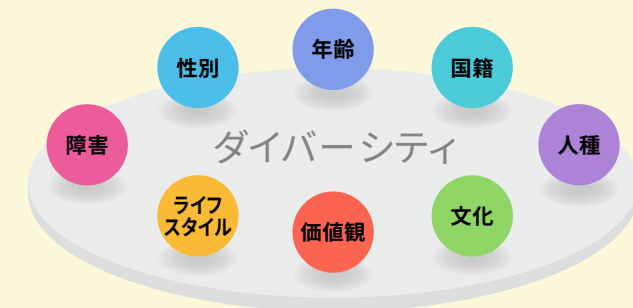
理念に共感するグループの一人ひとりが互いを受容し、 学びあい、持続可能な社会とグループの成長をめざします



重点課題 ダイバーシティの推進

社会ニーズ

▷ 誰もが働きやすい職場づくり



課題解決ストーリー

▷ 新しい働き方を創出し、多彩な人材が働きやすく成長できる環境をつくり、新たな社会価値を生み出します



従業員がダイバーシティを知り、より身近に感じることを目的に、壁新聞「なないろ」を2017年に創刊しました。年3回発行し、グループ各事業所に掲示しています。

現在、少子高齢化やグローバルなビジネス環境の変化とともに、企業を取り巻く環境も、働く人を取り巻く環境も、今までにない変化を見せています。私たちは、社是「楽業偕悦」をはじめとするグループの理念や、お互いの話に耳を傾け、感謝の気持ちを伝える企業文化を大切に、一人ひとりが生き生きと働ける環境づくりを

進めてきました。誠実で多彩な人材が、互いを受容し、学びあうことで、一人ひとりの成長と、新たな価値を生み出すイノベーションにつなげ、より豊かな社会の実現とグループの成長をめざします。

ダイバーシティの推進への取り組み

みんなが志を同じくし、力を合わせる

私たちは、一緒に働いている仲間一人ひとりの声に耳を傾け、会話していくことを大切にしています。キューピーグループは全国各地に事業所を展開しており、数多くのパート社員や派遣社員が働いています。職場を支えているすべての従業員がグループの理念や歴史を学ぶ機会があります。本社や支店だけではなく、生産事業所においてもグループ合同研修や交流会を行い、社長や役員と直接的な対話を行っています。従業員一人ひとりが理念に共感し、やりがいをもって働き続けられる機会につながっています。



東京都府中市にある研修施設「みらいたまご」の理念研修室での交流会の様子です。デリア食品をはじめサラダ・惣菜事業を担うグループ各社は、2015年に交流会をスタートし、現在では年10回（繁忙期を除き月1回・1泊2日）開催しています。

SDGs目標5: ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワメントを図る



SDGs目標8: 働きがいも経済成長も

すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する



誰もが働き続けられる職場づくりをめざして

キューピーグループは、障害のある方が働く喜びや生きがいを実感できる職場環境をつくることは社会的な使命であると考え、全国各地の支援機関や、特別支援学校と関係を築きながら積極的な障害者雇用を進め、2017年の障害者雇用率は3.3%となっています。タマゴ事業やサラダ・惣菜事業の生産事業所では、障害者が現場に入って仕事ができる環境を整備しています。同じ職場で働くことは、健常者の気づきや成長にもつながっています。また、キューピーあい（特例子会社）では、電子文書化、販促物作成・発送、館内物流、清掃など多岐にわたる業務を展開し、障害者が得意分野で力を発揮しています。



キューピータマゴの工場では、割卵機の水槽に生卵を投入・洗浄している様子です。卵は割れ易いので丁寧に扱う必要があり、スピードも求められる根気のいる作業ですが、このような作業を得意とする障害者が健常者とペアになって活躍しています。



編集後記

キューピーは2019年に創立100周年を迎えます。次の100年もお客様に信頼される企業でありたい、その想いでCSRの基本的な考え方と重点課題を表明しました。今後もキューピーグループ全体で力を合わせて取り組んでまいります。

詳細はこちらをご覧ください。



キューピーホームページ



お問い合わせ

キューピー株式会社 広報・CSR本部 CSR部
東京都渋谷区渋谷1-4-13
Tel: 03-3486-3052 Fax: 03-3486-6151